

「第5回 世界経済の新たな動きに関する研究会」

アフリカ経済における新たな動きと諸問題

2011年4月27日

早稲田大学

大門 毅

1. マクロ経済動向

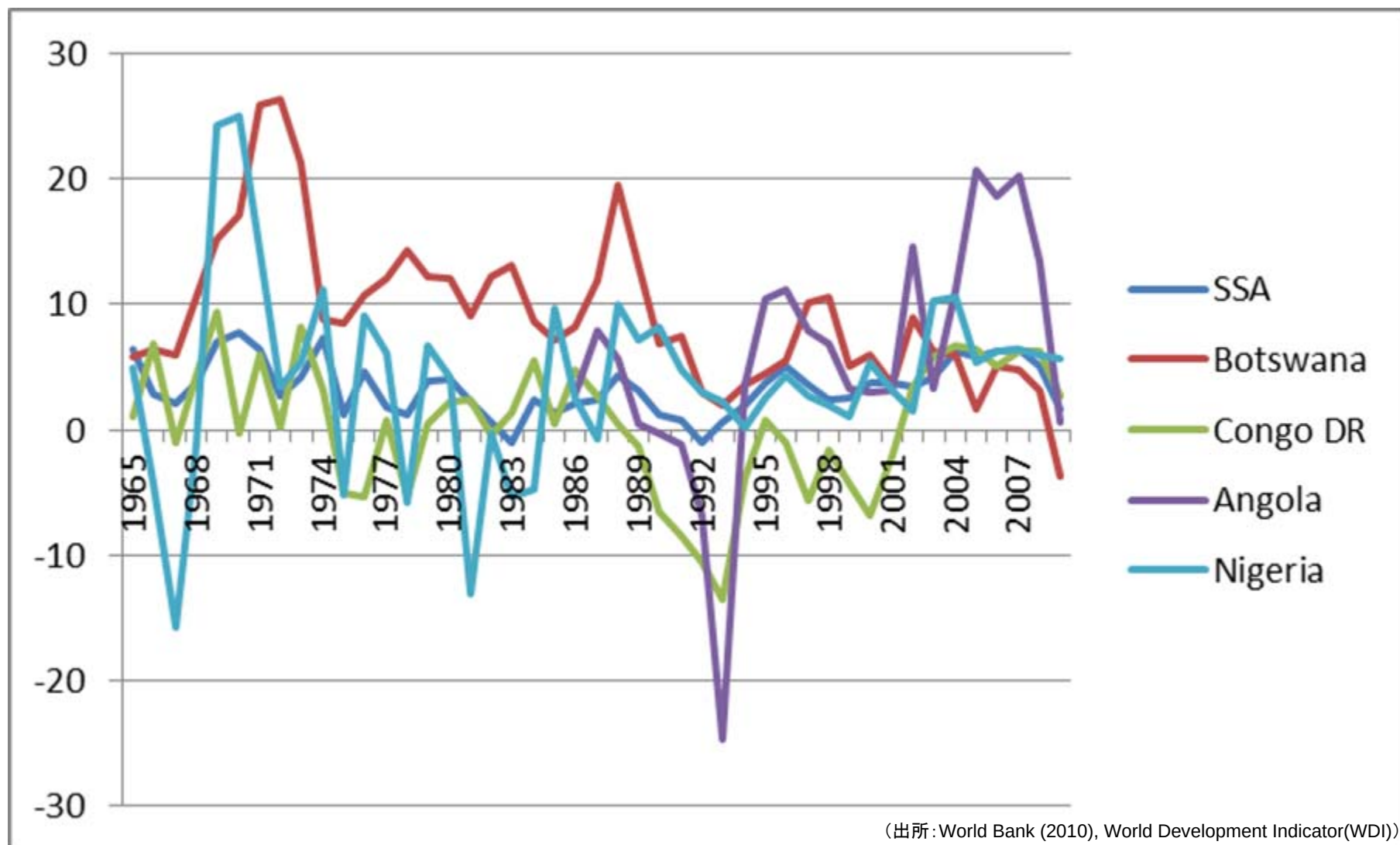
- 世界経済における位置づけと歴史的経緯
- 経済成長(率)推移と域内格差
- 2008-09経済危機の影響と回復
- 株式市場の回復(南アの例)
- 資源開発から産業開発(阻害要因)
- 域内協定

世界経済の中のサブサハラアフリカ

Sub-Saharan Africa (SSA)

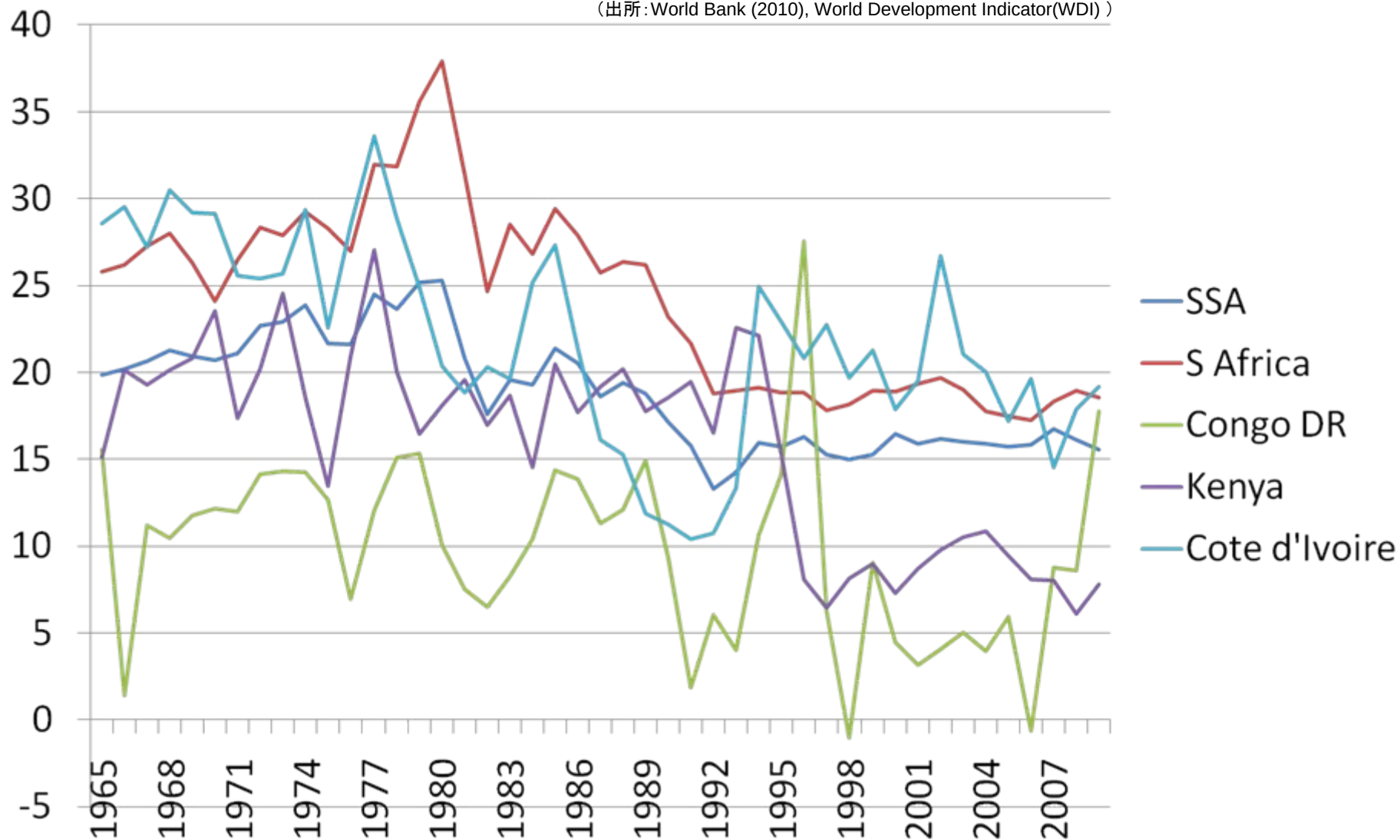
- 世界人口の14%だが、世界経済におけるアフリカ諸国のGDPシェアは1.5%、貿易も2%未満、投資は1%未満
- 多くが、HIPC（重債務貧困国）であり、対外援助（ODA）に財政的に依存
- 政治経済、社会構造の不安定
- 環境破壊（砂漠化）、食糧問題
- HIV/AIDSをはじめとする公衆衛生、教育水準
- 経済・社会インフラの未整備

経済成長率の推移と域内格差



国内貯蓄率(対GDP%)推移

(出所: World Bank (2010), World Development Indicator(WDI))



2008-9経済危機の影響

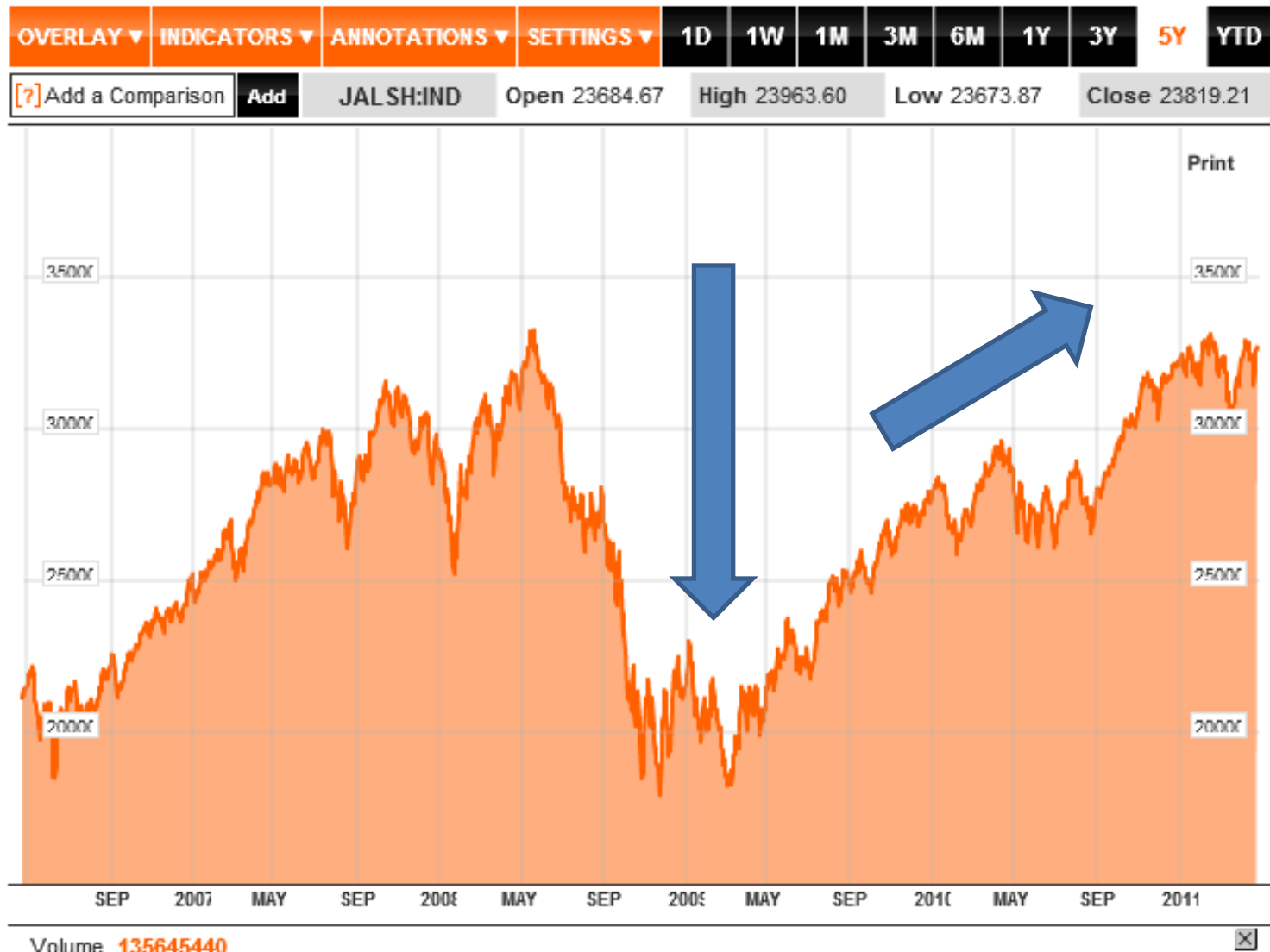
- 大半の国で、成長率が大幅に落ち込む
- GDPに占める輸出比率の高さ
- モノカルチャー経済（資源輸出に依存）
- 1980-90年代の自由化・民営化政策（構造調整）？
- 但し、その後は回復基調

SSA	63.3
Angola	98.5
Cote d'Ivoire	75.5
Nigeria	63.0
Senegal	68.0
South Africa	55.4
Congo, Dem. Rep.	31.3

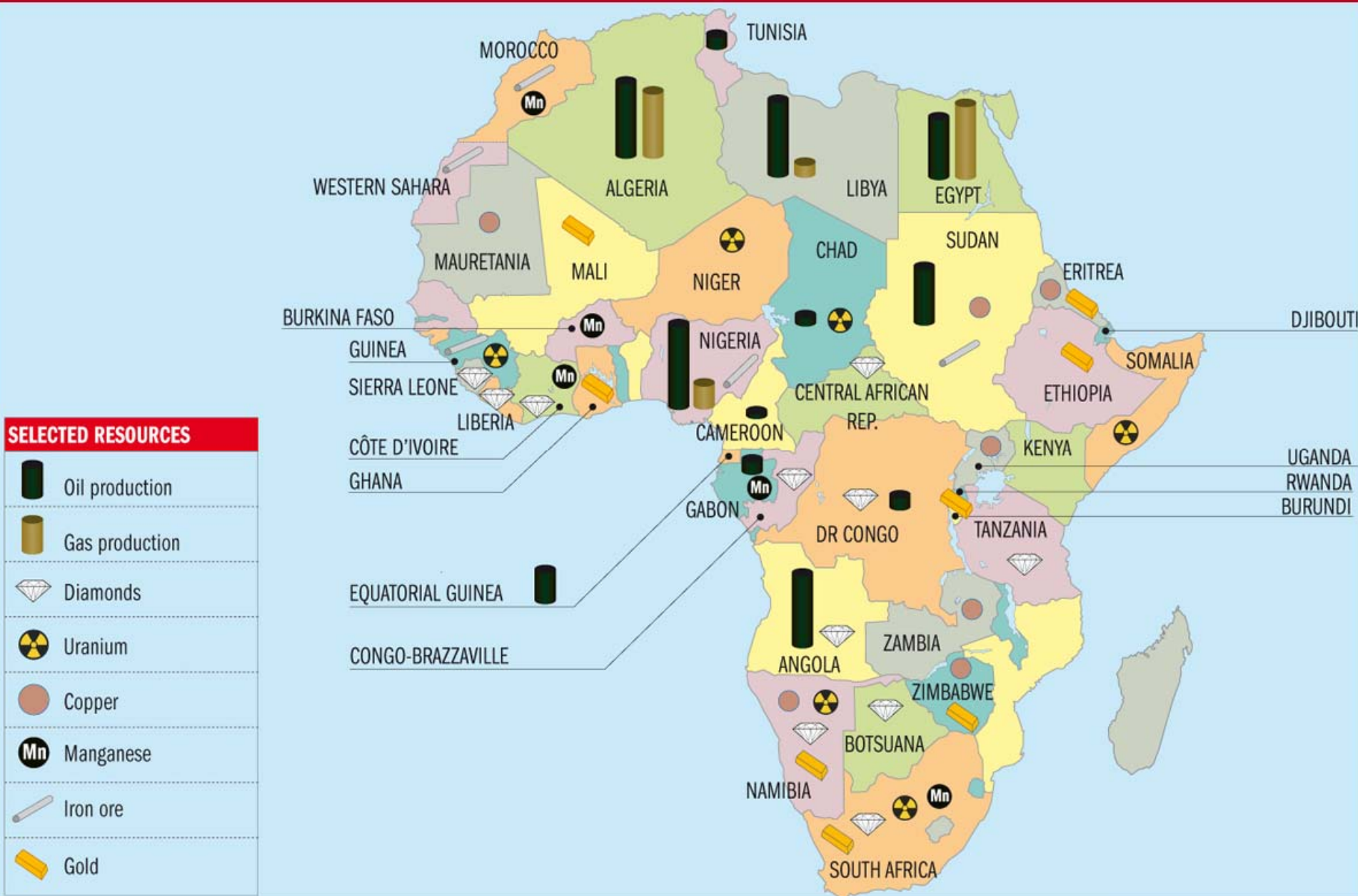
（出所：World Bank (2010), World Development Indicator(WDI) ）

株式市場の回復 (J-Burg株式市場)

(出所: Bloomberg (HP))



Africa: Natural resources

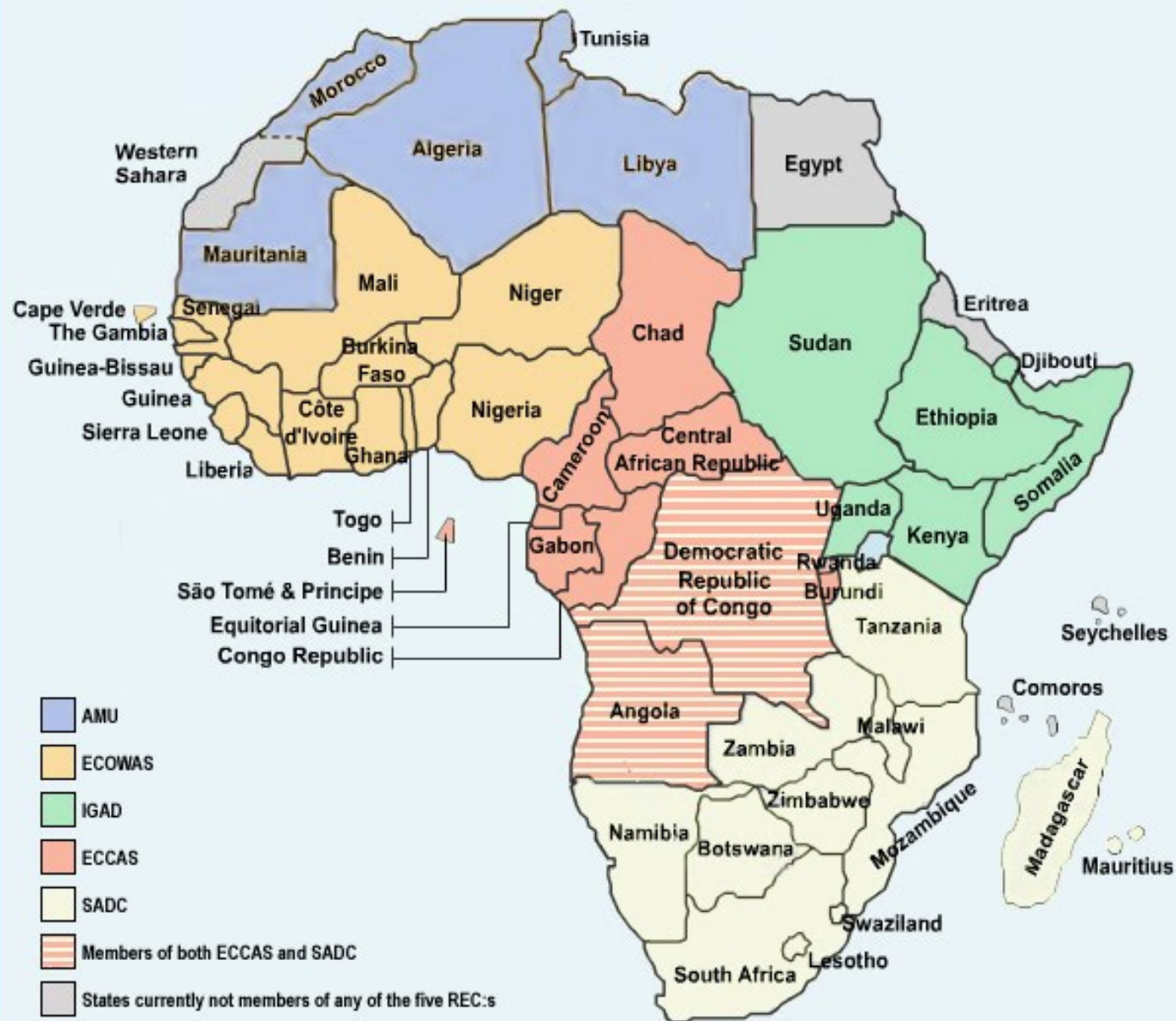


資源開発から産業開発への阻害要因

- エネルギー・鉱物資源に依存する経済開発モデルにはDutch Diseaseの落とし穴
- 人材(教育)の不足
- 制度(統治機構・ガバナンス)の脆弱性
- 援助(公的資金)への依存
- インフラ未整備→高い流通コスト
- 一国で自立した経済システム(金融・流通を含む)を確立することの困難さ(→域内協定)

Regional Economic Communities supporting the African Standby Force

域内協定の状況

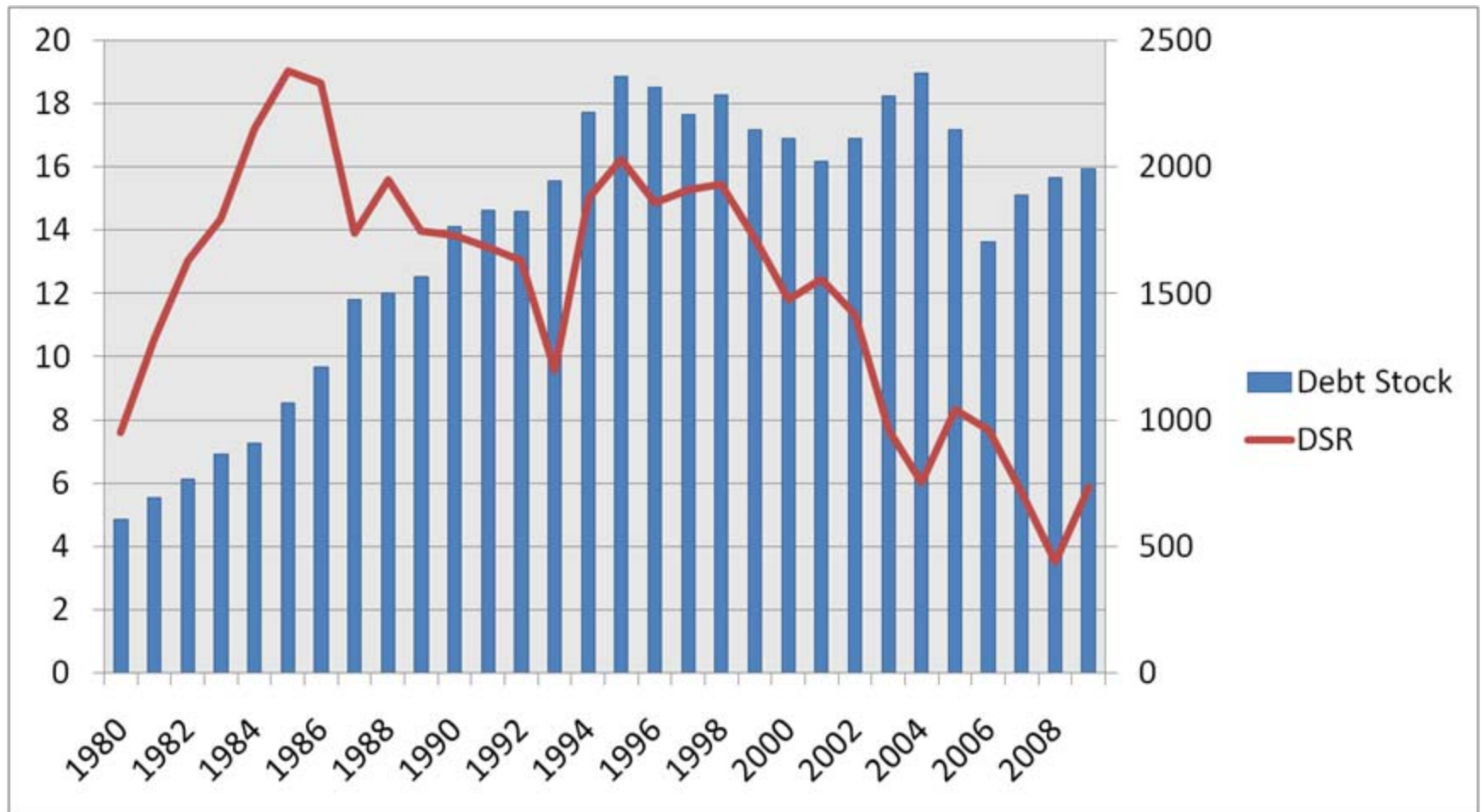


SADC(南部アフリカ開発共同体)

- 1980年4月1日にSADCの前身である南部アフリカ開発調整会議(SADCC)が発足。アパルトヘイト廃止後、1992年に現加盟国・改称。
- 2008年8月には自由貿易地域(FTA)を発足させるも、2010年までに締結を目指していた関税同盟は締結されておらず、2018年までの共通通貨の導入も道筋が立たない。
- SACU (南部アフリカ関税同盟: 南ア、ナミビア、ボツワナ、レソト、スワジランド)間の調整問題？
- しかし、(民間主導の)成長のポテンシャルが高い国が多い。→日本企業の誘致？

対外債務動向

SSA全体



(出所: World Bank (2010), World Development Indicator(WDI))

2. 社会開発動向

- 他地域との比較
- 所得水準の域内格差（資源保有国、非保有国）
- 国内格差（ジニ係数）
- 所得の階層化（ピラミッド構造）、中間層の欠如

人間開発指数、社会開発指標

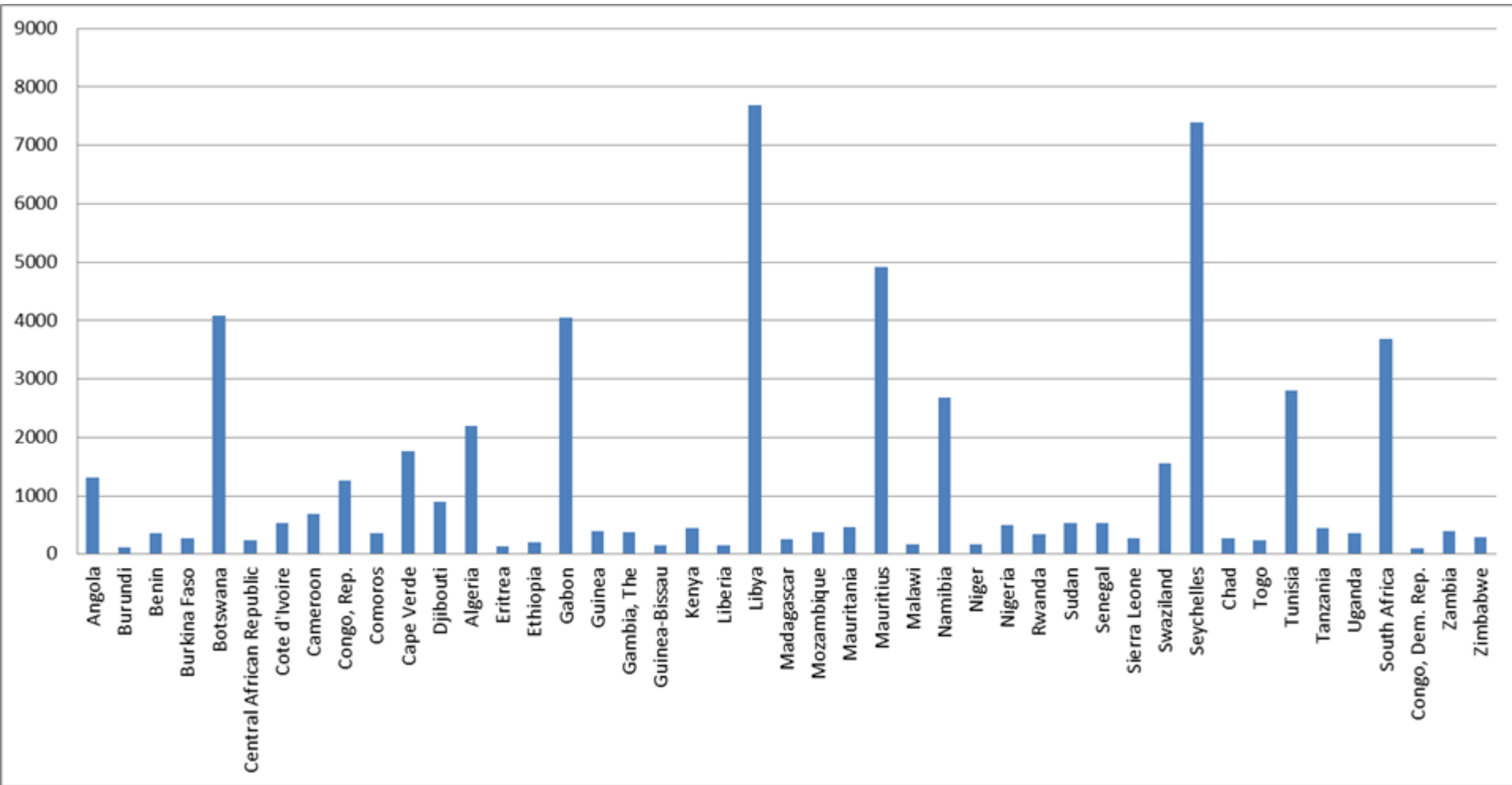
南アジア地域と並んで低開発

		HDI	平均寿命	識字率	就学率	GDP/人
				(%)	(%)	(PPP)
アラブ諸国		0.719	68.5	71.2	66.2	8,202
東欧・旧ソ連		0.821	69.7	97.6	79.5	12,185
東アジア・太平洋		0.77	72.2	92.7	69.3	5,733
中南米		0.821	73.4	91.2	83.4	10,077
南アジア		0.612	64.1	64.2	58	2,905
SSA		0.514	51.5	62.9	53.5	2,031
OECD		0.932	79 ..		89.1	32,647
EU諸国		0.937	79 ..		91	29,956

(出所: UNDP (2010), Human Development Report)

HDI = Human Development Index(人間開発指数)

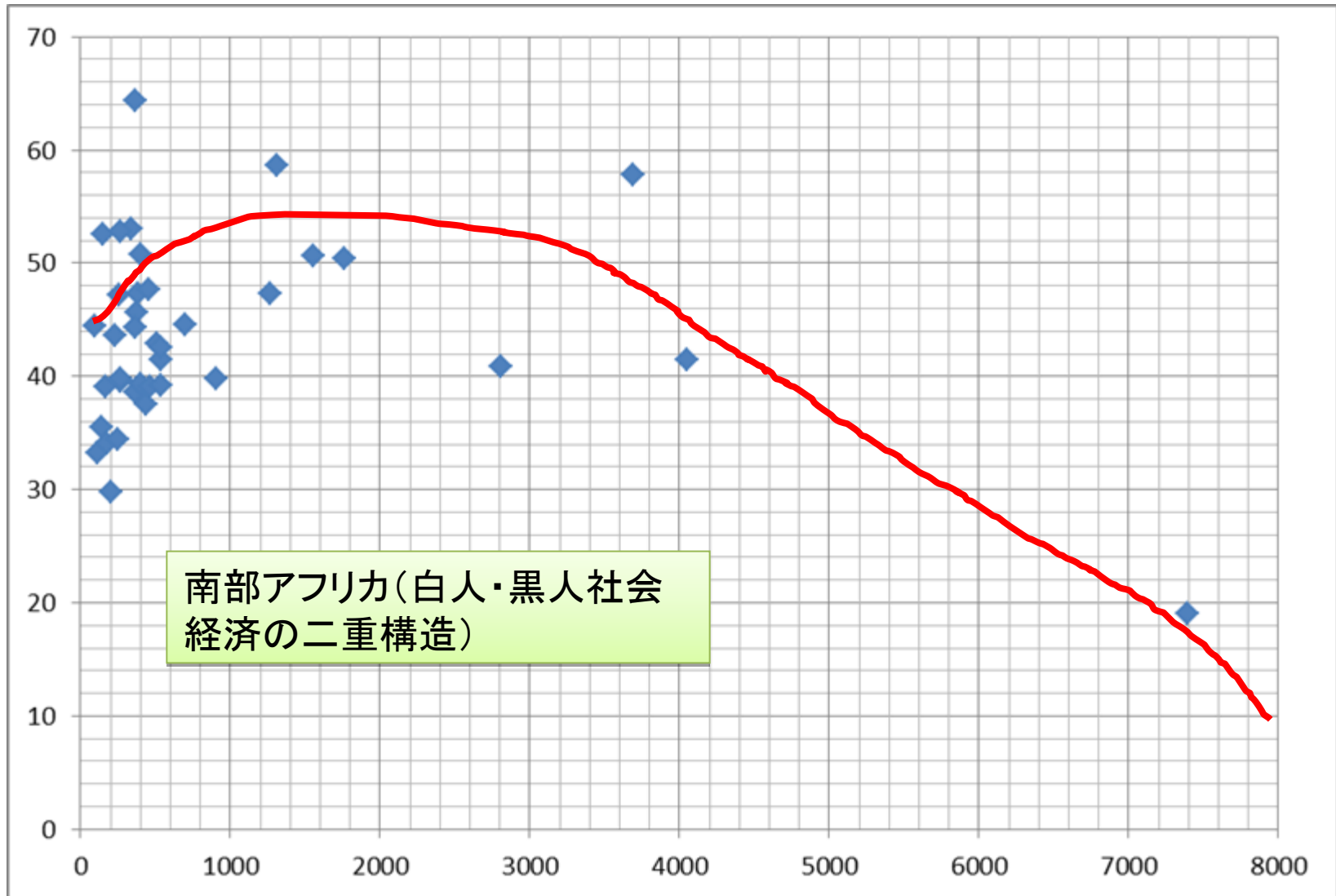
所得水準の域内格差



(出所: World Bank (2010), World Development Indicator(WDI))

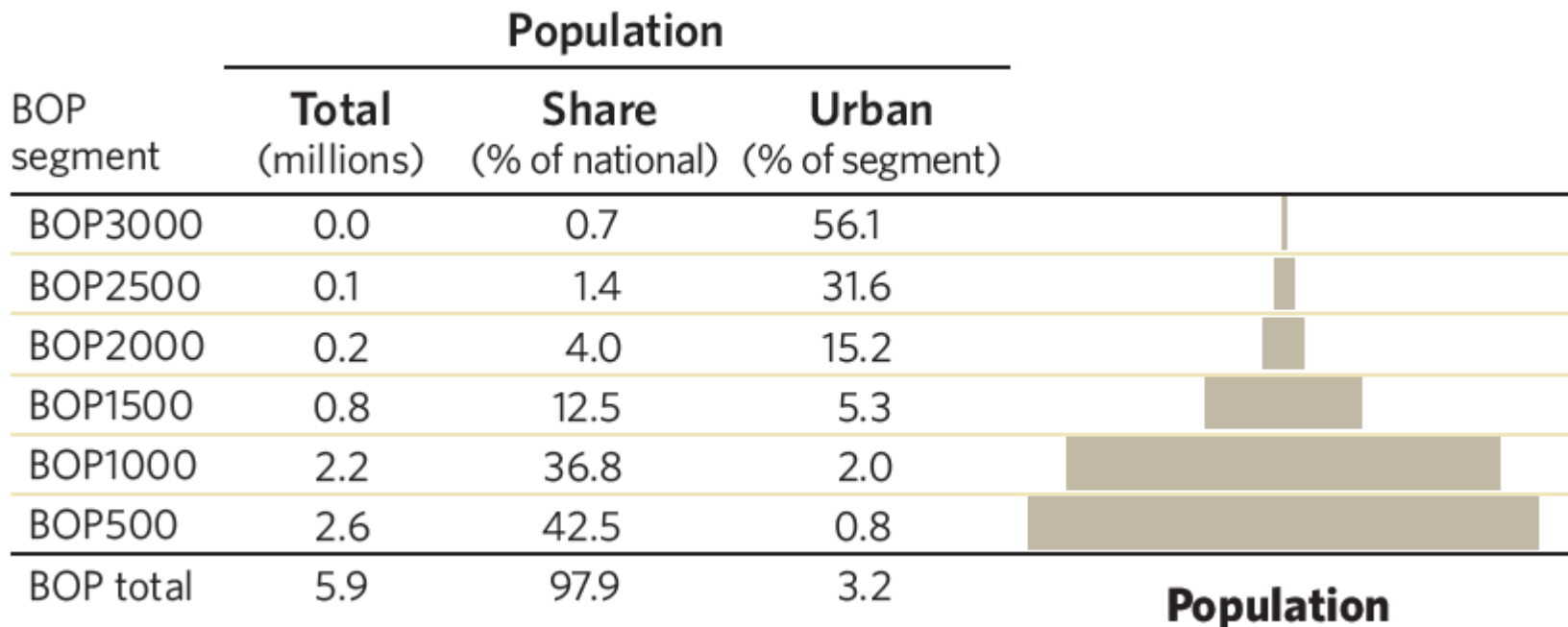
コンゴ民(97ドル; 2009年)、ボツワナ(4082ドル)、ナミビア(2673ドル)

国内格差(ジニ係数)



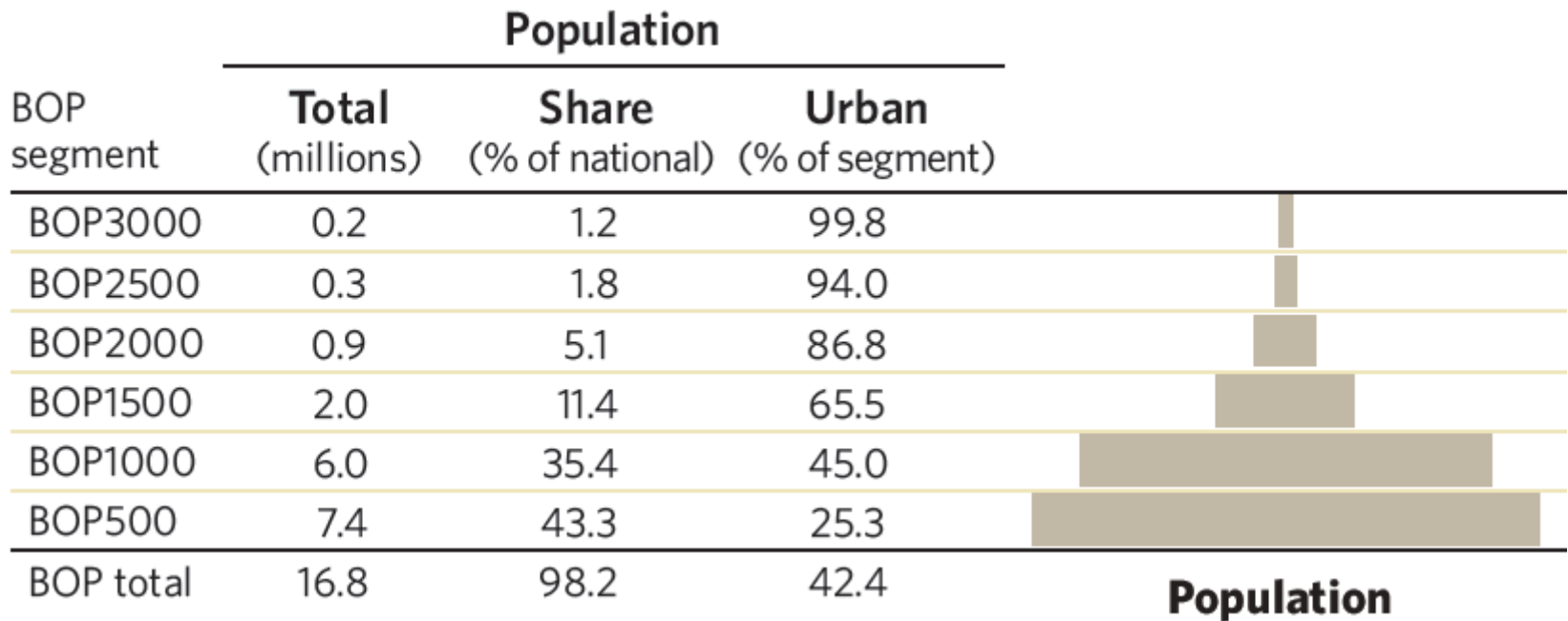
(出所: World Bank (2010), World Development Indicator(WDI))

BOP (Base of the Pyramid)



(出所: International Finance Corporation (IFC) (2007), The Next 4 Billion)

ブルンジ～ピラミッドの底辺に人口の大多数が集中



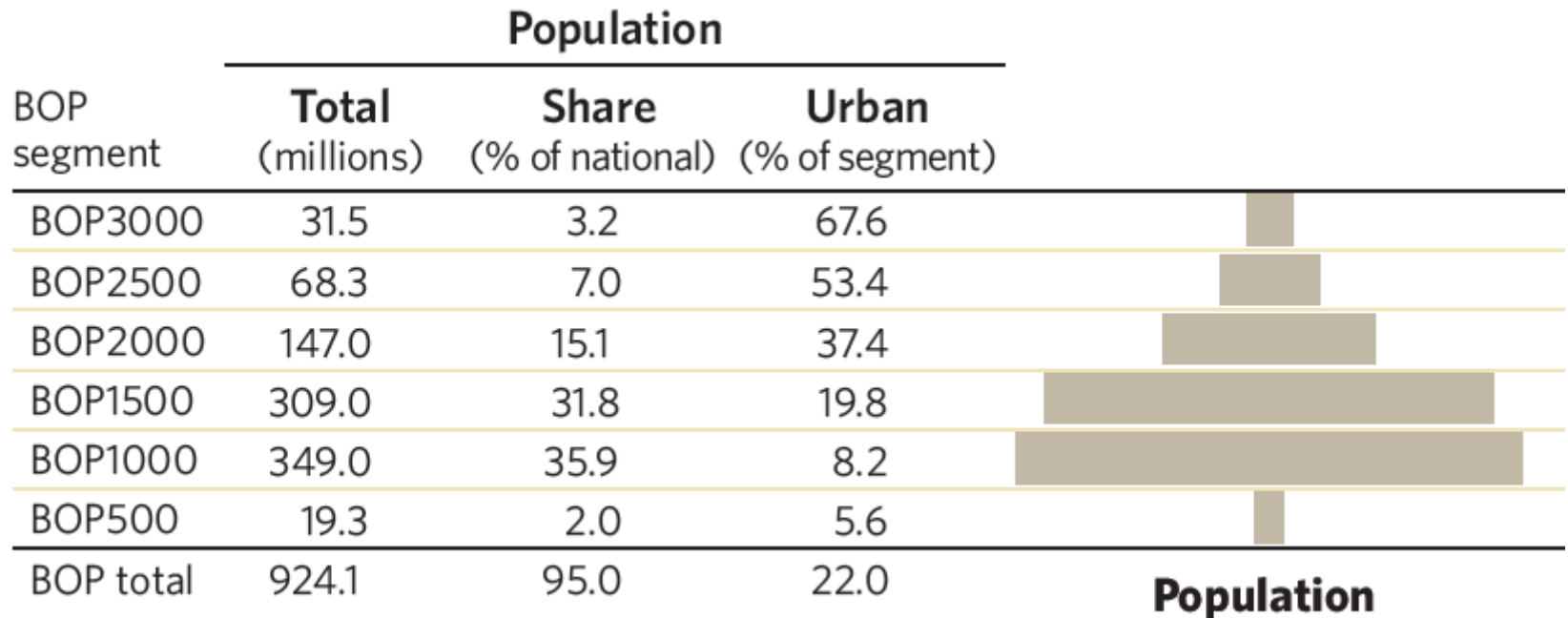
(出所: International Finance Corporation (IFC) (2007), The Next 4 Billion)

コートジボアール～ブルンジと同
様の傾向

アフリカの所得構造

- 所得水準における域内格差の問題（南部アフリカとそれ以外）
- 国内格差の問題（逆U字型仮説）
- 南部アフリカにおける、二重構造（白人経済と黒人経済）
- ピラミッド型構造、少数の金持ちと、多数の貧困・極貧層（中間層の欠如）

南アジア型経済との違い



(出所: International Finance Corporation (IFC) (2007), The Next 4 Billion)

インド～格差・ピラミッド構造はあるものの、中間層が拡張している(アフリカとの違い)

貧困状況

	1.25\$/日	2\$/日
Liberia	83.65	94.84
Burundi	81.32	93.45
Rwanda	76.79	89.6
Malawi	73.86	90.45
Tanzania	67.87	87.87
Madagascar	67.83	89.61
Nigeria	64.41	83.91
Zambia	64.29	81.52
Central African Republic	62.83	80.09
Chad	61.94	83.28
Mozambique	59.99	81.58
Congo, Dem. Rep.	59.22	79.55
Burkina Faso	56.54	81.21
Angola	54.31	70.21
Congo, Rep.	54.1	74.4
Sierra Leone	53.37	76.08

(出所: World Bank (2010), World Development Indicator(WDI))

- 一日あたり1.25ドル以下で暮らす極貧層の人口割合(ヘッド・カウント)が、過半数を超える国はアフリカ諸国のほぼ半数。
- 平均所得(一人当たりGDP)の高低とは必ずしも一致しない(→所得分配の問題)

Benin	47.33	75.32
Comoros	46.11	64.98
Guinea	43.34	69.59
Niger	43.09	75.92
Ethiopia	39.04	77.57
Togo	38.68	69.31
Gambia, The	34.34	56.7
Senegal	33.5	60.36
Uganda	28.67	55.32
Cote d'Ivoire	23.75	46.34
Mauritania	21.16	44.13
Cape Verde	21.02	40.85
Kenya	19.72	39.92
Djibouti	18.84	41.2
South Africa	17.35	35.74
Cameroon	9.56	30.36
Gabon	4.84	19.59

(出所: World Bank (2010), World Development Indicator(WDI))

- 極貧層の人口割合が過半数を超えない国は政治的にも比較的安定している。(例外: コートジボアール)
- 資源依存型のアフリカ経済の構造的問題(資源を独占・私物化した者＝権力者)
- 統治機構・ガバナンスの問題

インフラ整備状況

	安全な水 %	衛生なトイレ %	舗装道路 %
東アジア	87.88	59.00	11.44
南アジア	86.66	35.70	47.46
SSA	59.74	31.30	12.05

(出所: World Bank (2010), World Development Indicator(WDI))

- インフラ整備は全体として遅れ、輸送コスト高
→ 価格に反映。
- コスト高の生産構造 → 国際競争力の低下

3. ガバナンス動向

- アフリカにおける国民国家
- 脆弱国家、脆弱性指数
- 紛争リスク(計量分析)

アフリカにおける国民国家

- 「脆弱性」の高い国→大半はSSA→多くが紛争（内戦）状態ないしは紛争のリスクが高い国
 - 国民国家 (Nation State)の意味合い。
- 「独立に際して宗主国フランスから継承したのは、国民国家の外枠としてのEtat(国家)であって、統合された市民共同体としてのNation(国民)ではなかった」(コートジボアール元大統領ボワニ)
- 昨今のコートジボアール(他アフリカ地域)不安定化の文脈

脆弱性指数

State Fragility Index

脆弱性指数(SFI) = 有効性スコア + 正当性スコア
(最高25点)

内訳:

- 有効性スコア = 治安の有効性 + 政治的有效性 + 経済的有效性 + 社会的有効性 (最高13点)
- 正当性スコア = 治安上の正当性 + 政治的正当性 + 経済的正当性 + 社会的正当性 (最高12点)

SFI と紛争リスク(1996-2007)

SFI	のべ紛争期間(国x期間)	紛争確率(%)
0～3	2	0.38
4～7	7	2.27
8～11	42	9.46
12～15	90	20.3
16～19	64	19.3
20～25	127	66.1

出所: Global Report 2009

国家の脆弱性→正当性・統治機構→経済運営の不安定性
→政権の不安定性→紛争リスク

国家脆弱性指標 (SFI)

(出所: Global Report 2009)

	Fragility Index	Effectiveness Score	Legitimacy Score	Security Effectiveness	Security Legitimacy	Armed Conflict Indicator	Political Effectiveness	Political Legitimacy	Regime Type	Economic Effectiveness	Economic Legitimacy	Net Oil Production or Consumption	Social Effectiveness	Social Legitimacy	Regional Effects
Somalia	25	13	12	■	■	War	■	■	—	■	■		■	■	Mus
Dem. Rep. of Congo	23	12	11	■	■	War	■	■	dem	■	■		■	■	Afr
Sudan	23	11	12	■	■	War	■	■	aut	■	■	4	■	■	Mus
Afghanistan	22	12	10	■	■	War	■	■	—	■	■		■	■	Mus
Chad	22	12	10	■	■	War	■	■	aut	■	■	4	■	■	Mus
Myanmar (Burma)	21	11	10	■	■	War	■	■	AUT	■	■		■	■	
Ethiopia	21	11	10	■	■	War	■	■	dem	■	■		■	■	Afr
Iraq	20	10	10	■	■	War	■	■	—	■	■	22	■	■	Mus

Sierra Leone	19	11	8			*			DEM				
Burundi	18	12	6			X			DEM				
Central African Rep.	18	10	8			War			aut				
Liberia	18	11	7			*			DEM				
Niger	18	9	9			*			aut				
Nigeria	18	9	9			War			dem			5	
Rwanda	18	10	8			*			aut				
Angola	17	8	9			X			aut			55	
Burkina Faso	17	10	7						aut				
Guinea	17	8	9			*			—				
Zambia	17	9	8						DEM				
Zimbabwe	17	9	8			*			dem				
Cameroon	16	6	10						aut			1	
Congo-Brazzaville	16	7	9			*			aut			25	
Cote d'Ivoire	16	10	6			X			—				
Guinea-Bissau	16	10	6			*			DEM				
Mauritania	16	8	8			*			aut				

ODA

PKO

制度

教育

インフラ

紛争抑制要因

デモ

紛争

低

紛争のリスク(脆弱性)

高

ストライキ

暴動

紛争助長要因

地域性

民族

資源

紛争リスクの計量分析

1975～2009データ

- Tobitモデルによる分析

$$\begin{aligned} Y &= \beta X + \varepsilon = Y^* & \text{if} & & Y^* > c \\ Y &= 0 & \text{if} & & Y^* \leq c \end{aligned}$$

- Y^* は紛争につながるリスク要因
- X は Y^* に影響をあたえらると思われる説明変数
(内生・外生要因を含む)

被説明変数 説明変数	紛争の深刻度	ゲリラ活動	暴動	脆弱性
所得		負の相関		負の相関
インフラ	負の相関	負の相関	負の相関	負の相関
教育		(弱い負の相関)		
交易	負の相関	負の相関	負の相関	
アフリカ	負の相関	負の相関	負の相関	正の相関
政治制度	正の相関	正の相関	正の相関	
ODA(日本)	負の相関	負の相関	負の相関	負の相関
ODA(全体)	負の相関	負の相関	負の相関	負の相関

「アフリカ」(ダミー変数)は紛争リスクと「負の相関」が見られたが、SFI(脆弱性)とは正の相関がみられた。

→デモや暴動という形での意思表示行動を許容する(しない)政治制度？

4. 援助動向

- 高い援助依存率
- 対SSA援助推移と日本のプレゼンスの落ち込み
- 民間資金（FDIと海外送金）
- 援助を巡る新たな課題（中国の台頭）

高い援助依存率

2009年データ

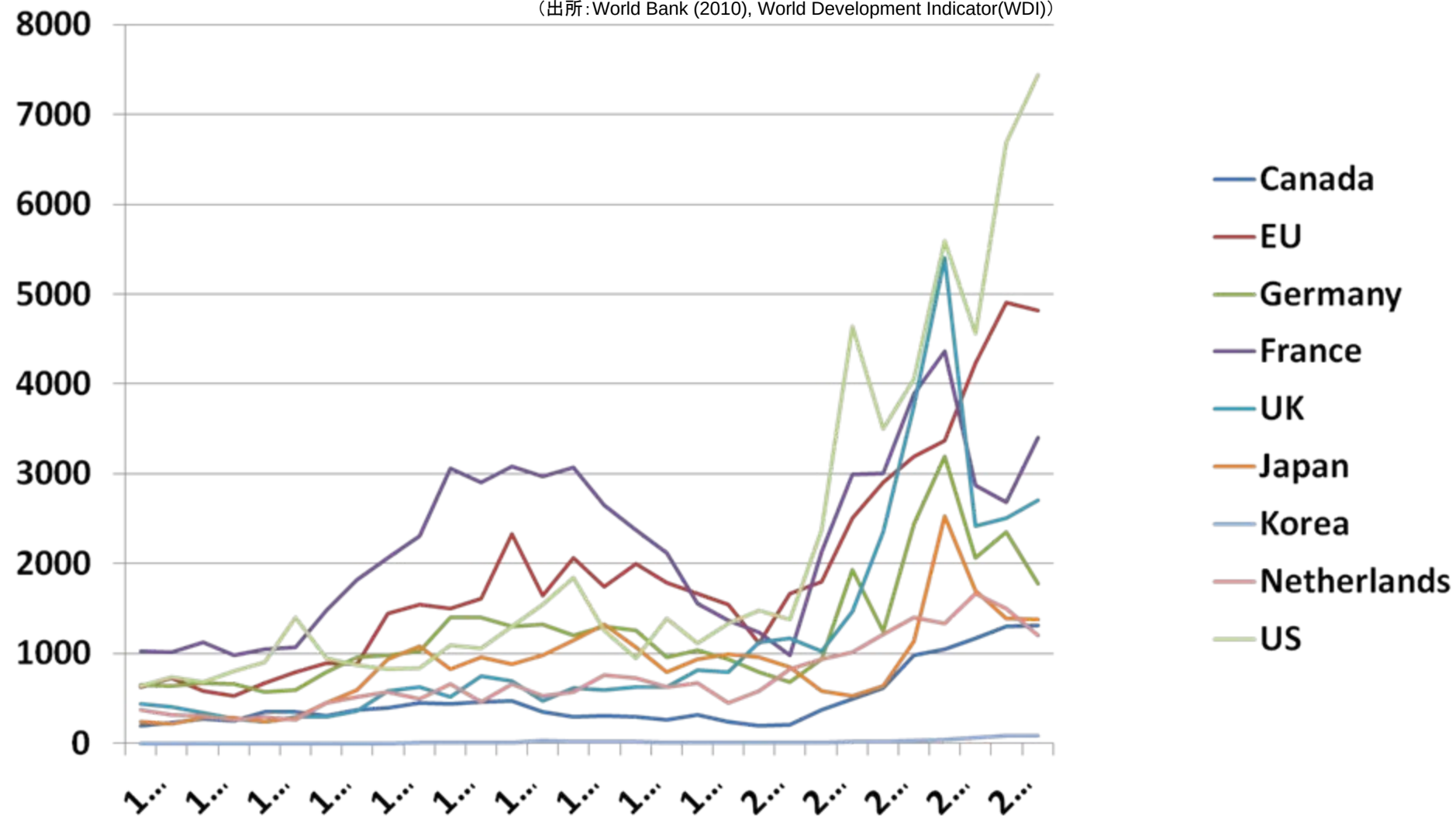
ODA受領額/人(\$)		ODA受領額/GDP(%)		ODA受領額/歳入(%)	
Cape Verde	387.5	Liberia	78.3	Burkina Faso	102.5
Suriname	302.2	Burundi	41.2	Sierra Leone	101.9
Seychelles	263.7	Congo, DR	23.9	Togo	100.6
Djibouti	187.7	Sierra Leone	23.0	Uganda	86.9
Namibia	150.2	Mozambique	20.8	Benin	68.2
Botswana	143.4	Gambia	18.5	Cote d'Ivoire	57.6
Liberia	127.7	Rwanda	18.0	Cape Verde	44.9
Mauritius	122.0	Guinea-Bissau	17.6	Kenya	27.9
Cote d'Ivoire	112.3	Togo	17.5	Seychelles	9.3
Zambia	98.1	Malawi	16.6	Mauritius	8.4

(出所: World Bank (2010), World Development Indicator(WDI))

対SSA援助額推移

2000年以降の日本の対SSA援助の伸び悩み

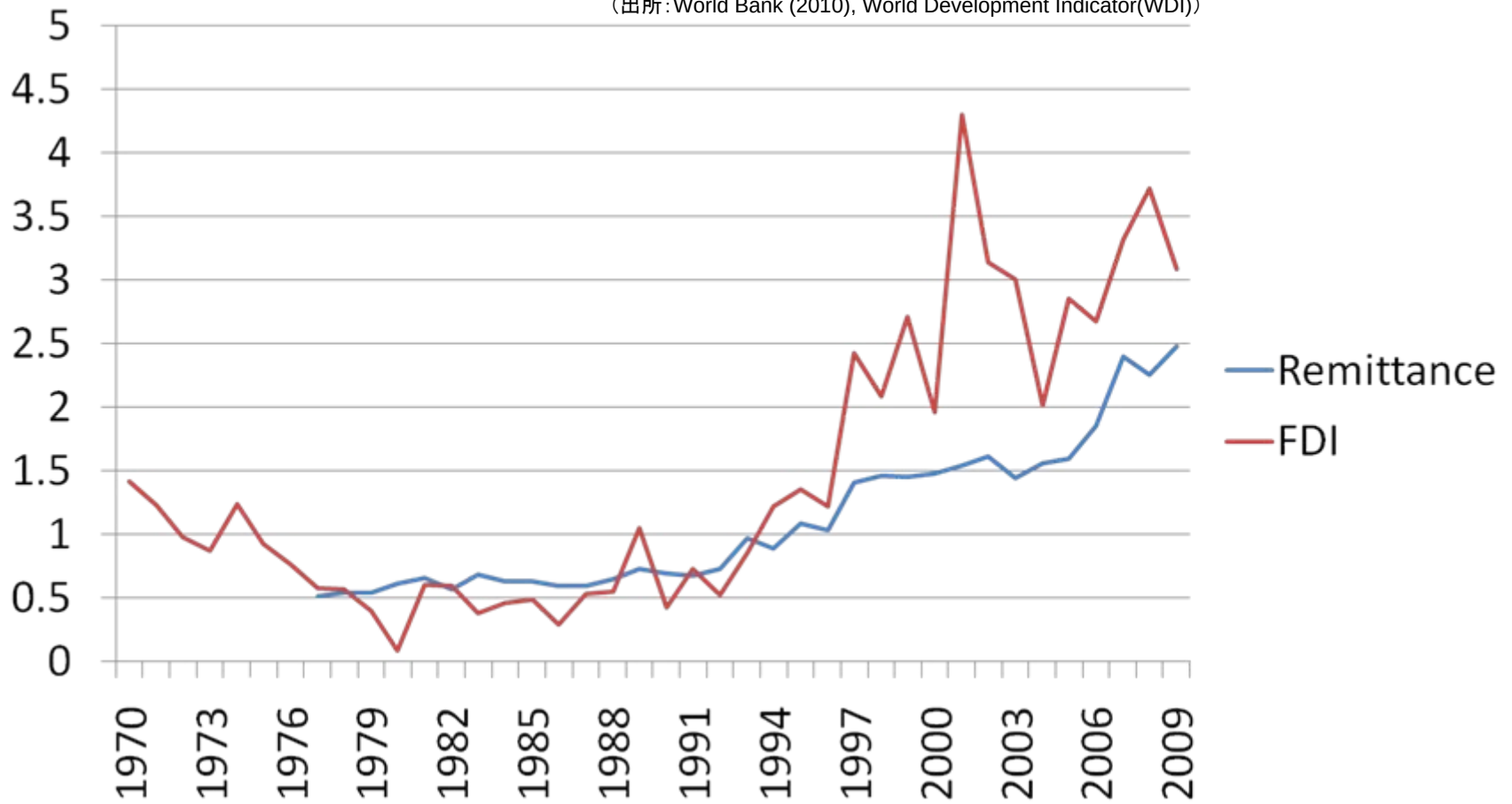
(出所: World Bank (2010), World Development Indicator(WDI))

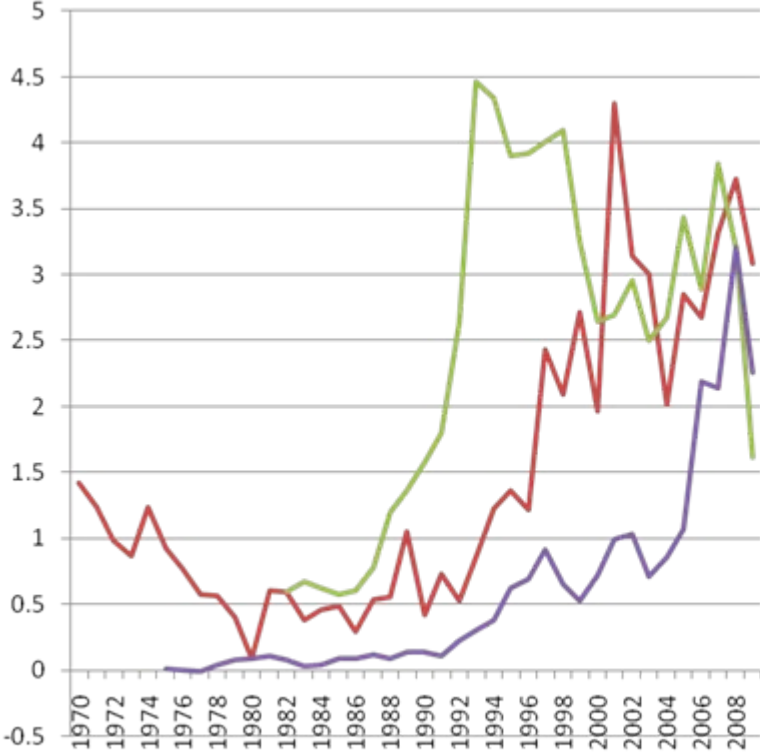


増加する外国送金

FDIとの比較(対GDP%)

(出所: World Bank (2010), World Development Indicator(WDI))

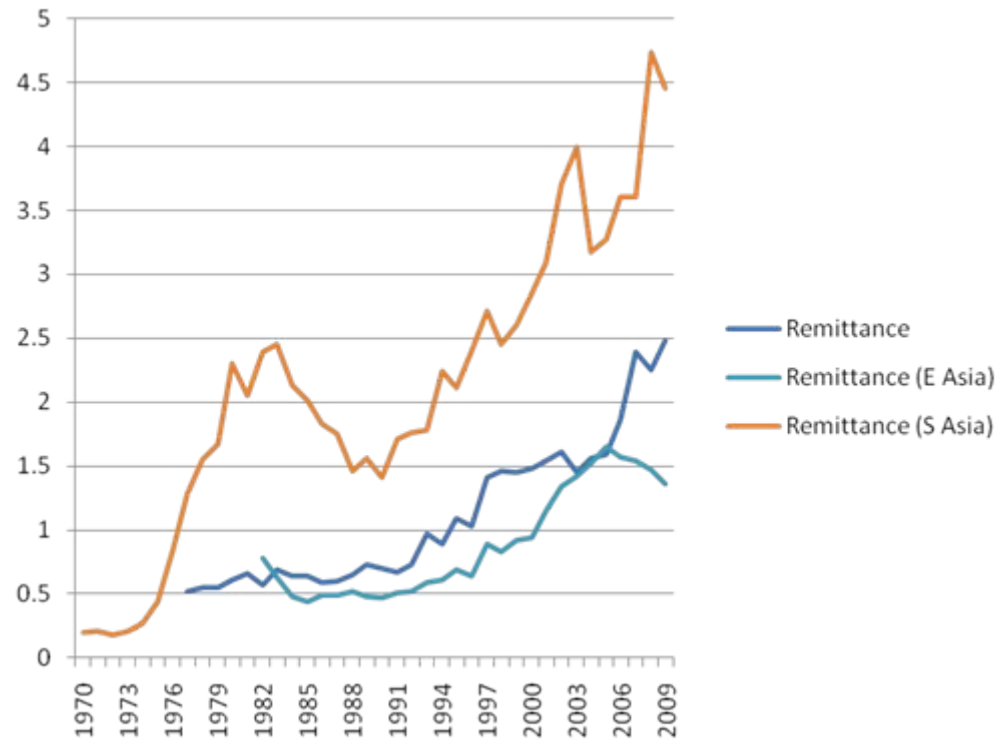




FDIは堅調に伸びている(2008-09
危機の影響は少ない)

FDI
FDI (E Asia)
FDI (S Asia)

海外送金は伸びている(東アジ
ア・南アジアとの比較)



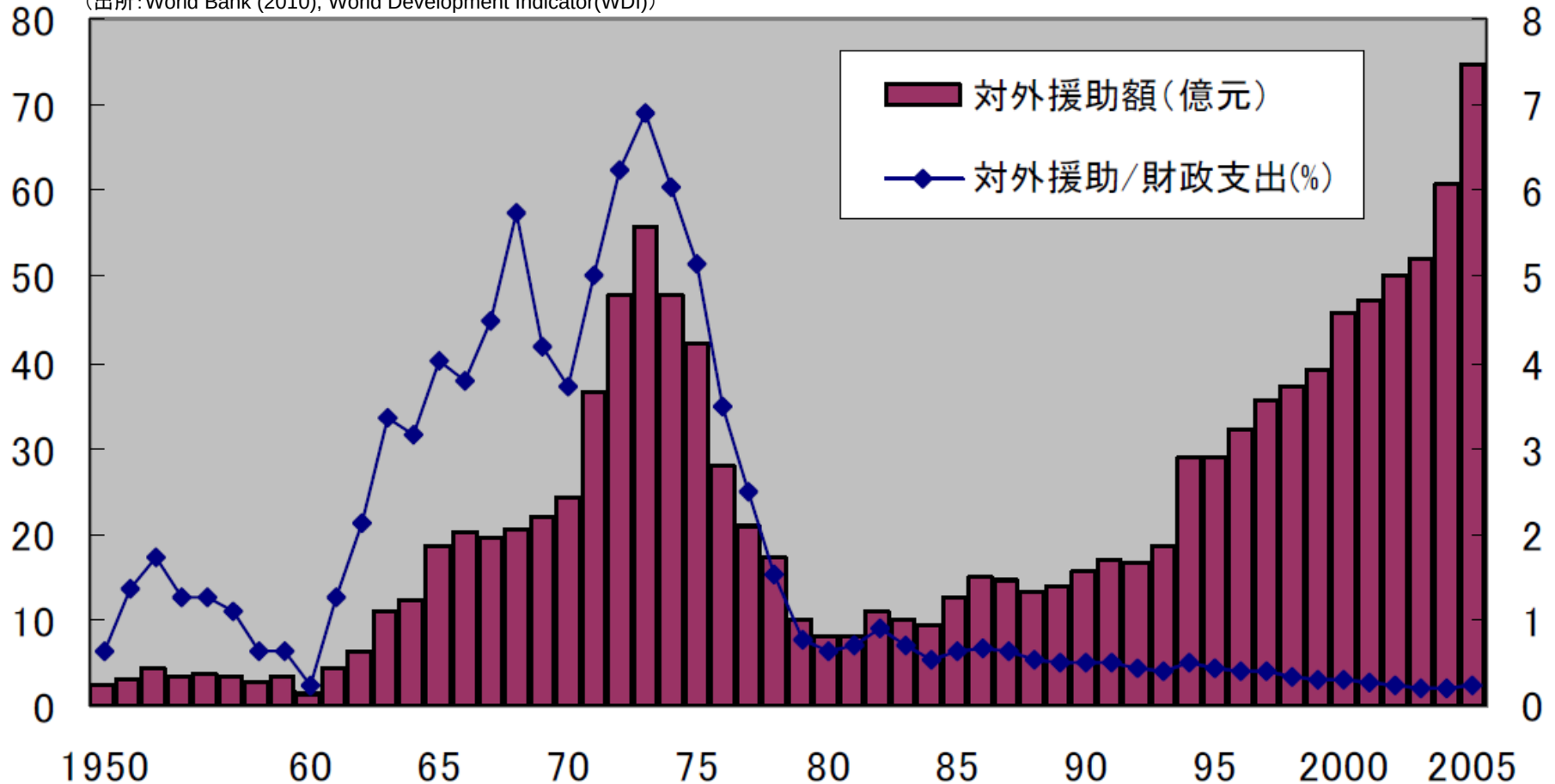
アフリカ援助を巡る新たな視点

中国の対アフリカ援助

- 中国政府「中国の対外援助白書」を初公表
(2011.4.21)
- 累計の援助額累計は2562億元(約3兆2300億円)で、地域別ではアフリカ向けが45.7%で最大、アジア向け32.8%
- 2004～09年の年平均伸び率は29.4%
- 内訳は、無償が1062億元、無利子融資が765億元、低利融資が735億元。低利融資の6割はインフラ整備、9%は石油など資源開発(援助を資源獲得に活用)
- OECD/DAC非加盟の中国による援助増加は援助協調にとって複雑な影響をもたらす

中国の对外援助額推移(1950～2005) 全世界向け

(出所: World Bank (2010), World Development Indicator(WDI))



アフリカにおける中国の援助→(従来は)大統領府・サッカー場建設などモニュメント的なものが目立ったが、最近では、中国企業の誘致に結び付いたインフラ(道路・上下水道など)が増えてきている

5. 今後の注目点

- 短期的には、政情不安（治安の問題）の続くコートジボアール、コンゴ民など中央・西アフリカ地域；分離独立をした「南スーダン」
- 中長期的には、これらはNation Buildingを模索する過渡期と考えるべき
- 成長のエンジンは「インド洋経済圏」「南部アフリカ」。但し、国内二重構造が社会問題化しないように注視が必要
- 中国の対アフリカ進出・資源外交に注視